平成２９年１月６日

地域振興課
担当者　山田
内　線　3688
直　通　076-225-1335

平成２８年度石川地域づくり表彰団体等の決定について

本県では、地域づくり活動の一層の活性化を図るため、住民主体で先進的な地域づくりに取り組んでいる団体・個人を知事表彰することとしており、今年度の受賞者を次のとおり決定しましたので、お知らせします。

※本表彰は平成９年度から開始し、当初は隔年で実施、平成２１年度から毎年実施しております。

１　受賞者

団体部門	優秀賞	・能美市商工女性まちづくり研究会【能美市】 ・ＮＰＯ法人おとぎの杜【金沢市】
	奨励賞	・ＮＰＯ法人加賀市観光ボランティア大学【加賀市】 ・大聖寺文化研究会【加賀市】 ・千里浜砂像協会【羽咋市】

２　審査について

団体部門で５団体、個人部門で１個人の推薦があり、石川地域づくり表彰審査委員（谷本亙座長、以下４名で構成）による、書類審査及び審査委員会を実施し、先進性・独自性、継続性、発展性、自主性、協働性・連携性、効果の６つの観点から審査したうえで、石川地域づくり表彰の受賞者を決定しました。

３　主催及び後援

主催：石川県
後援：石川県市長会、石川県町長会、石川地域づくり協会

４　表彰状授与式

日時：平成２９年１月７日（土）１０：３０～（約１時間３０分）
場所：金沢市文化ホール（金沢市高岡町１５－１）
地域づくり研修交流会「地域づくり円陣」の席上にて

石川地域づくり表彰　受賞者（５団体）

団体の部

【優秀賞】

〇能美市商工女性まちづくり研究会（Ｈ２４．２設立、能美市）

代表　北野　ゆかり（きたの　ゆかり）

＜活動概要＞

・山間部を中心として買い物に困っている地域住民が多く存在している現実を改善するため、平成２４年に、能美市商工会女性部の有志が、トラックによる移動販売を開始。

・移動販売に先立ち、１年の準備期間をおいて、市社協と連携しながら、地域住民の実情やニーズを聞き取り調査し、支援事業の企画や運営方法を検討。それを踏まえ、生鮮三品（肉、魚、野菜）を中心とした生活必需品の移動販売、仕入先の協力による高齢者の食べ切れる量への商品小口化、地域住民の出会いと交流の場の創出、地域支え合いを推進するため戸別配達ではなく公民館での移動販売等を実施。

・地域住民に喜ばれ、移動販売は順調に伸びている。

・市内でも特に山間部であり獣害被害に悩む鍋谷地区の高齢者が生産した花や野菜を買い取り、他地区で販売することにより、同地区の高齢者の生き甲斐を創出。

・事業としては採算が合いにくい人口が少なく高齢者が多い地区をターゲットとするため、ボランティアの活用、賛助会員集め、仕入先からの販売手数料の受取など、様々な関係者の協力を得て活動費を確保。

〇ＮＰＯ法人おとぎの杜（Ｈ１６．８設立、金沢市）

代表　出口　威（でぐち　たけし）

＜活動概要＞

・平成１６年、熊の出没する里山の環境保全、こどもの健全育成、地域の活性化を目的として、ハローワークの起業支援講座のクラスメートを中心としてＮＰＯ法人を設立。

・設立当初は粗放竹林の整備等に取組んでいたが、現在は金沢市内３ヶ所の耕作放棄地で無農薬野菜を栽培。畑作業を通して、障がいをもつ青少年と地域住民との交流・ふれあいの場を提供。年間延べ３００人が畑作業に参加。

・平成２８年度から、珠洲市大谷の旧旅館を宿泊所として、東日本大震災に伴う原発事故のあった東北地域の子供達を招待し、被ばくの懸念に怯える必要なく、能登の豊かな自然の中で遊び、新鮮な食材を食べるといった保養事業を開始。５月と７月の２回に分け、延べ７家族２７人を招待。珠洲の地域住民も２０名以上参加し、旧旅館の掃除や伝統芸能である太鼓の披露等を行う。子供達の笑顔を見るため、地域の若者が受入に向け知恵を出し頑張る姿は、地域の高齢者に希望と活力をもたらした。

【奨励賞】

○ ＮＰＯ法人加賀市観光ボランティア大学（H１８．４設立、加賀市）
代表　竹本　利夫（たけもと　としお）

＜活動概要＞

・平成１８年、加賀市の良さを市民誰もが理解し、人に伝えることができるようになることを目的として、市内で観光ボランティアガイドをしている有志５名が、加賀市の歴史・文化・自然の魅力を学ぶ１年制の市民大学を開設。平成２３年にＮＰＯ法人化。

・同団体は、ふるさと案内人を育成する市民講座を、座学と実地研修により、毎年４月から翌年１月まで、概ね月２回の頻度で、開講式や修了式を除き全１９回開催。これまでに２３０名以上が受講し、修了生として１６０名以上を輩出。

・市内の山代・動橋・山中の３地域では、修了生が地域ガイドとして活動。また、同団体は、市内全域をガイドできる上級ガイドも養成。彼らが観光客に魅力を伝えることで、市の観光振興に貢献。

・依頼に基づき、小中学校や公民館への出前講座を実施。各地区小学校の学校評価で「市や地区が好き」という回答が多くなるなど、郷土愛の醸成に寄与。

○ 大聖寺文化研究会（Ｈ９．４設立、加賀市）
　　代表　澤田　淳子（さわだ　じゅんこ）

＜活動概要＞

・大聖寺「灯ろう流し」は、昭和２６年、戦後の混沌とした世相の中で、子どもの健全な育成を図ることを目指す地域づくり団体により始められたが、人手不足とゴミ回収の負担から昭和５０年頃に休止。
・しかしながら、灯ろう流しを幼少期に体験していた地域住民は、これをかけがえのない貴重な体験と感じ、今の子ども達にも体験させたいとの思いから、有志により平成９年に大聖寺文化研究会を立ち上げ、２０余年振りに灯ろう流しを復活。以来、現在まで１９年にわたり継続しており、大聖寺の夏の風物詩となっている。
・平成１７年より、地域の町内会やＰＴＡなどが参画する実行委員会方式で実施しており、地域を巻き込んだ活動となっている。児童・園児は、家族・先生をはじめとした地域の大人とともに灯ろうをつくり、自らがつくった灯ろうを流すことで約１，０００基が大きな灯りの帯を成す幻想的な光景を目にする。これら一連の流れは、子どもの情操教育において価値を有している。
・平成２５年度より、温暖化防止啓発イベントとして加賀市が実施する事業「キャンドルナイト」と共同開催することにより、参加者が増加。

○ 千里浜砂像協会（Ｈ７．１２設立、羽咋市）
　　代表　原田　敏雄（はらだ　としお）

＜活動概要＞

・千里浜の賑わいづくりを目的として平成６年に開催された「千里浜砂まつり」のイベントの一部として、地元有志が砂像を製作したことをきっかけに、砂像による千里浜の知名度を向上させるため、平成７年に団体を設立。現在まで２１年間の活動実績があるとともに、今後の活動継続に向けて砂像製作の担い手確保にも努めている。

・日本で唯一車で走行できる千里浜なぎさドライブウェイ特有の粒子の細かい砂を用いることにより、全国的に高い評価を得ている精巧な砂像を製作。千里浜海岸での毎年約２００日間にわたる砂像の製作・展示や、市外・県外イベントへの積極的な出展製作により、千里浜への観光誘客に貢献。
・また、商店街と連携し、植木鉢を利用した小型砂像（ポット砂像）を商店街に展示することにより、団体が長年の活動で培った砂像の知名度を活かし、商店街への誘客に貢献。
・千里浜海岸の浸食の現状と保全の必要性について、砂像製作を通して多くの方々に関心をもってもらうことによって、千里浜海岸の保全に貢献。